

令和5年12月7日(木)、京都市立柏野小学校にて小教研主催事業”授業力UP!“ 京都市学校給食・食育研究会による事業として授業研究会が開催された。細川洋太教諭と山口紗世栄養教諭による、4年生の学級活動『日本の伝統食「おせち料理」を食べよう』の公開授業が行われた。

<授業について>

テーマ 日本の伝統食「おせち料理」を食べよう



事前に行ったアンケートで、「正月におせち料理を食べている児童は91%であるが、なぜ食べるのかその意味は知らないという児童が72%」という結果であった。今回の学習では、「おせち料理に込められた願いについて考えを深め、おせち料理を食べていくために自分たちができることを考え、実践できるようにすること」を本時のねらいとした。

おせち料理を食べる意味や千年以上も前から今の自分たちにおせちを食べることが受け継がれてきたことを知り、自分の家庭に思いを馳せながら「うちのおせち」を作成することができていた。また、児童同士でも交流を深め、さらに「私のおせち大作戦」を考え、お正月に向けて実践をつなげることができた学習であった。

<研究協議より> (参観者・視聴者からの意見)

◎→学んだこと ▲→わたしならこうする

視点1: 食文化を自分事に引き寄せる導入や、学習の終末での児童の意思決定への手立ては有効であったか。

◎お重の資料や意味を示すことで、おせち料理のイメージやがふくらみ、「幸せ」という言葉が子どもからでる手立てとなっていた。

◎事前アンケートの結果を見ることで自分事としてとらえ、「願いを知りたい」という意欲につながっていた。

◎T1とT2の連携がよく、「誰に対して願いをこめるのか?」という発問が当事者意識を引き出せていた。

▲導入でおせち料理の生まれた歴史背景なども伝えられると、家族や収穫への感謝などの思いにもつながったのではないか。

▲ワークシートは、「誰にどうなってほしいか」が書ける形式にすると、書きやすいのではないか。

▲めあてと最後の目標のずれがあった。「うちのおせちを考えよう」だけではなく、「どうつなげていくか」を考えるめあての方がよいのではないか。



視点2: 食育の視点【食文化】という分野での評価と、事後の活動の設定はどうあるべきか。

◎「さぐる」でおせち料理を食べる意味を予想したことで、幸せになるための願いが込められていることをよく理解できた。

◎事後に給食を食べて感想を貼ることはみんなが経験でき、よい。

◎事後への意欲につながる声掛けができていた。

▲家庭の事情でおせちを作らない家庭もあるので、給食でできるめあてを設定する。

▲おせち料理を「作る」のは難しいかもしれないので、「つめる」「買い物を手伝う」「作り方を知る」などでも広げられるとよい。

▲次の世代に伝える方法を考え、ポスターや掲示板、新聞、放送などで校内で伝える機会を設ける。

正月の食事メモ	
名前	
① 正月に食べたもの	
② 正月にチャレンジしてみたことを書こう!	
(おせち大作战や、正月の食事でチャレンジしたこと)	
③ おせち料理を食べるのを楽しんだ、準備するのを楽しんだ、感想を書き残した、など	

柏野小の事後の取組み・・・保護者におたよりを発行し、子どもたちが考えたおせち料理を紹介することで、子どもたちの学びが家庭につながる取組みを行った。子どもたちには「正月に食べたもの」「正月にチャレンジしたこと」をワークシートに記入させ、振り返る予定である。

<導入(つかむ)>

アンケート結果から自分たちの様子をふりかえる。

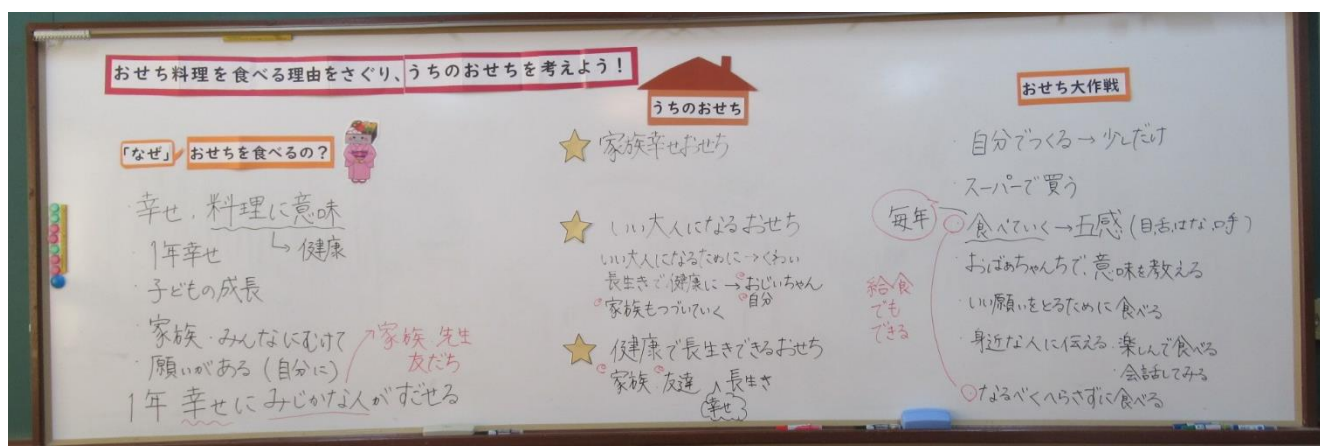


<展開(みつける)>

「うちのおせち」と、おせち料理の名前を考える。



<板書>



◎指導助言 体育健康教育室 増田 真弓 副主任指導主事より

- ・アンケートを示すことで視覚的に自分の正月をふり返ることができ、なぜ食べているのか子どもたちへの問いを明確にされていた。
- ・ロイロノートを活用し、自分自身でおせちを詰める体験によって、思いを込めて一人ひとりが前向きに取り組んでいた。しかし、「見つける」と「決める」の場面の時間確保するためには、おせち料理の願いの紹介に時間をとりすぎない工夫が必要である。
- ・身近な人のことを一所懸命考える子どもたちの姿がすてきで、教え込むことなく、子どもが主体的に考える授業だった。
- ・特別活動は授業が終わった瞬間がスタートで、事後の指導で実践することが重要。児童は、積み重ねてきたことを認めてもらうことで自己肯定感が上がり、継続することにつながるので、自己決定したことを実践することが大切である。
- ・4年生での国語科・社会科の学びと、5年生に向けた家庭科につながるころから、教科横断的になって考えられていた。

◎指導助言 柗野小学校 校長 小林 宏樹 先生より

- ・カリマネも意識し、T1 と T2 の役割を明確にし、事前準備をしっかり行ってきたことが子どもたちにきちんと返っていた。事前アンケートを示したことで、自分事ととらえ、子どもたちが問いをもち、問題解決に向かう主体的・対話的で深い学びになっていた。これからお正月や給食でおせち料理を食べることで学習のつながりが子どもたちのものになっていくのではないかな。
- ・他の教職員がどれだけ食育に主体的に関わってもらえるか、今後の食育を「チーム学校」で取り組む動きにつながっていくとよい。